

年 度 別	検 査 総 数	陽 性 数	分離菌の菌型別							
			1a	1b	2a	2b	3a	4a	V.X	Sonnei 1
30	1361	93	0	26 (27.9)	16 (17.2)	23 (24.8)	7 (7.5)	0	2 (2.2)	19 (20.4)
31	741	16	0	3 (18.8)	6 (37.5)	2 (12.5)	3 (18.8)	1 (6.2)	0	1 (6.2)
32	2168	33	1 (3.0)	0	12 (36.4)	7 (21.2)	6 (18.2)	3 (9.1)	0	4 (12.1)
計	4270	142	1	29	34	32	16	4	2	24

〔註〕表中( )内の数字は年間の陽性数に対する百分率を示す。

### 3. 山梨県下に於けるリケツチア性疾患に関する調査研究報告

本田 玄四郎

#### 前　　書

リケツチア症としての恙虫病が我が国に於ては秋田、山形及び新潟地方に古くより存在し、これ迄に多くの学者による之に就いての研究が行はれ、輝かしい業績が挙げられている事は周知の如くである。然るに、一般に重篤なる経過を辿るこの恙虫病に比して、軽症とは雖も之と相似た性質の疾病が上記三地方以外にも相当数存在する事が知られている。さすれば、是等のものが果してリケツチア性の疾患なりや否や、然りとすれば恙虫病として認め得るや否や、将又発疹熱又はその他のリケツチア症に属せしむるものなりや否や等研究すべき問題が起り来るは当然である。この意味に於て、恙虫病が上記三地方にのみ限局されるとは限らず、それ以外の地方にも存在するや否やを究明するの必要ありと主張される機運が次第に高まつて來た。一方、山梨県に於いても、既に昭和12年加藤光徳氏が臨床診断による恙虫病患者の存在を報告した例がある。又南巨摩郡穂積村方面に於いて俗間「2週間熱」と称へらるる急性熱性疾患に対して、附近在住の中尾良一堀政治郎両氏は昭和22年以降患者血液のマウス接種による標本中にリケツチアを証明し、且つ患者血清のリケツチア補体結合反応（北里研究所実施）の成績等よりして、該疾患が発疹熱様のものなる事を報告してをつた。かかる事情から昭和26年2月以来、現地に於ての中尾良一氏による患者血液腹腔内接種を受けたるマウス脾臓乳剤を材料として当研究所の本田は爾後のマウス腹腔内累代接種を行ふと共に、リケツチア検索に努め、又同時に予防衛生研究所の北岡正見氏は該患者血清に対するリケツチア補体結合反応を行ふの三者協同研究を継続し來つたが、リケツチア疾陽性の成績は得られず終つた。なほ又同時期に単独に本田は大月地区に於ける急性熱性患者及び耐過者の相当数に關してもリケツチア症を目標として、諸検査を行つたが是よりも凡てリケツチア症たる確証は得られなかつた。

かかる折、恙虫病及びその他類似疾患を含め、地方性リケツチア症なる標題の下に、之を汎く全国的に調査研究する目的とするリケツチア研究班が田宮猛雄博士を主宰者として東京に結成されたのは昭和27年6月であつた。爾来、この地方性リケツチア症研究班は全国各地に於いて恙虫の分布状態

その種類又は、その刺繫による恙虫病の確認、病原体の分離を行ふ等の実際活動が継続されている。従つて、当山梨県に於ける調査研究も次に記す如く現在迄に四回行はれたのであるが、その都度当研究所も之に協力した。以下にその大要を記す次第である。

### 調査研究の概要

#### 1 研究班の構成

第三回までは予防衛生研究所、東京大学医学部衛生学教室、東京大学伝染病研究所及び北里研究所の研究員を以て構成され、第四回よりは之に東京医科歯科大学の各研究者が参加した。

#### 2 研究方法

野鼠・野鳥等の動物を捕獲し、之等の体表に附着するツツガムシを蒐集し、この分類同定は伝染病研究所寄生虫研究部及び東京医科歯科大学の研究班が一括して行ひ、ツツガムシ病毒分離のためには捕獲せる動物を、捕獲日時、場所、種類等により夫々各系統に区分し、夫等動物の各臓器を系統毎にプールして乳剤を作り、之によりマウス腹腔内接種を行ひ、ここに得られたる夫々のマウス群を各研究班に平等に分配して爾後のマウス腹腔内継代接種の用に供して、リケツチアの検索の材料とした。然し、中には捕獲条件によつて或る班単独の系統もあつた。

当科も動物捕獲作業及び之に続く病毒分離実験を分担した。尚ほ、是等野外活動と共に疫学的調査を行つたのは勿論である。

第1表 病毒分離成績

区分	調査年月日	調査地名	捕獲動物数	病毐分離系統 陽性のもの	リケツチア 陽性地
第1回	自昭和27年11月10日 至昭和27年11月14日	北巨摩郡小泉村 北都留郡初狩村 〃 賑岡村 〃 七保村 南巨摩郡穂積村	ハタネズミ 5 エジプトネズミ 8 小計 13	数字は 1 系統 (中の動物数を) 示す エジプトネズミ 3	七保村
第2回	自昭和28年3月3日 至昭和28年3月6日	北都留郡梁川村下畑 〃 七保村草木 A地 〃 B地 〃 吉平 〃 賑岡村畠倉 南都留郡宝村(北の沢) 〃 (南の沢) 南巨摩郡穂積村 A地 〃 B地	アカネズミ 45 ハタネズミ 9 ドブネズミ 3 エジプトネズミ 2 小計 61	ドブネズミ 1 アカネズミ 3 アカネズミ 7 アカネズミ } 5 ドブネズミ } アカネズミ 10 アカネズミ 8	梁川村下畑 七保村草木 A地 七保村吉平 賑岡村畠倉 宝村 穂積村 A地
第3回	自昭和28年11月26日 至昭和28年11月28日	北巨摩郡大泉村 〃 駒城村大坊 1 〃 2 〃 3 〃 4 甲府市 塚原町	アカネズミ 34 ハタネズミ 10 クマネズミ 17 ドブネズミ 1 ヒメネズミ 4 エジプトネズミ 1 小計 67	アカネズミ } 11 ハタネズミ } 7 アカネズミ 13 ハタネズミ 11 アカネズミ 7 ハタネズミ 2	大泉村 駒城村大坊 1 〃 〃 2
第4回	自昭和30年1月17日 至昭和30年1月19日	東山梨郡牧丘町窪平 〃 琴川 〃 三富村下釜口 南都留郡道志村神地 〃 和出 都留市菅野 南巨摩郡身延町塩沢 〃 五開村蟹谷 〃 鰐沢町鬼島	ヒメネズミ 8 アカネズミ 18 スミスネズミ 4 ハタネズミ 10 ハツカネズミ 1 クマネズミ 1 ホンシコウ ヒミズ 10 小計 52	アカネズミ } 7 ヒメネズミ } 8 ハタネズミ } 5 ヒメネズミ } ハタネズミ } 4 アカネズミ } スミスネズミ } アカネズミ } ハタネズミ }	牧丘町窪平 三富村下釜口 道志村神地 〃 和出 14個所
	計		29個所	193	

(1) リケツチア分離陽性成績は各班に於いて必ずしも一致はしなかつたが、或る班のみが分離に成功したる場合もその場所を陽性地とした。

(2) 捕獲動物中のモグラの外、スズメ、モズの若干数に対しても実験を行つたが、リケツチア陰性であつた。

第2表 附着恙虫分類

区分	捕獲地	捕獲動物	pall.	palp.	int.	fuji.	mit.	kit.	scut.	jap.	Gs
第1回	大泉村	ハタネズミ (4)	62	89	50	4				60	53
		アカネズミ (3)	118	138	13	37				47	13
第3回	小泉村	アカネズミ (9)	23	275	42	1		1		2	2
		ハタネズミ (2)	14	69	11	0				10	6
第3回	駒城村	アカネズミ (9)	8	20	12	4	1	1	5	38	1
		ハタネズミ (8)	2	4	8		1	1	1	10	
		ヒミズ (3)					1			1	
第3回	甲府市 塚原町	アカネズミ (11)	2	107		2					2
第4回	牧丘町		pall.	palp.	int.	fuji.	jap.	miy.	mit.	mij.	Gs
		ヒメネズミ (8)	3	0	8	63	2	0	4	0	0
	三富村	アカネズミ (18)	3	24	10	328	2	0	0	6	1
		スミスネズミ (4)	142	116	16	210	20	14	9	2	3
	道志村	ハタネズミ (10)	494	223	145	728	34	0	81	1	48
		都留市								6	102
	五開村	ハツカネズミ (1)	0	0	0	3	0	0	0	0	0
		身延町	クマネズミ (1)	0	0	0	9	0	0	0	0
	鰐沢町	ヒミズモグラ (10)	0	0	4	0	0	0	29	0	0

斯くて当山梨県の各地に於いて捕獲されたる野鼠等に就いて、それに附着するツツガムシ各種を蒐集して之を分類すると共に、ツツガムシリケツチアと酷似する Rickettsia 株 14を分類し得たが、是等の株の夫々と Rickettsia tsutsugamushi (Hayashi)ogata (Rickettsia orientalis Nagayo)との異同に関しては、形態学的並びに抗原的諸性状等よりして、今まで引続いて研究してゐる。

#### 4. 昭和29年4月甲府市に勃発せる水系感染と考へらるる集団赤痢について

本田玄四郎、小沢尚夫、伏見重友、有泉昇  
野中伴春、山下尚、野沢豊、守屋治男

##### 概要

昭和29年4月27日以降当科に於いて取扱ふ赤痢患者糞便検査件数が急激に増加し、同月30日に至り29名中6名より疑はしい菌を分離し、翌5月1日 Sh. sonnei 1相菌と決定し得たので急拠関係方面に通報すると共に情報蒐集を行つたところ、次の如くであつた。

即ち4月27日初発患者が発生し、その後29日には28名の発生を見、爾後連日多数に発生してゐる。患者は年少者でありその住所が市内に限られ、しかも旧市域全般に拡がつてゐる。症状に軽重はあり